

であう・きづく・つなぐ・つながる未来プロジェクト —吉川市子どもの貧困対策推進計画— (2019年3月策定)



基本理念

すべての子どもが希望をもって力強く成長していけるよう、子どもの貧困を見逃さず、
であう・きづく・つなぐ・つながる未来へ子どもたちを応援します。

計画の概要

●「子どもの貧困」の概念

子どもが経済的な困窮状態であることにより、発達
の諸段階において、学習や教育の場で制約を受けるなど
さまざまな機会が奪われた結果、人生全体に影響を
もたらすほど深刻な不利を負ってしまうこと。

2016年国民生活基礎調査では、子どもの貧困率は
13.9%、ひとり親家庭の子どもの貧困率は50.8%。

●「絶対的貧困」と「相対的貧困」

絶対的貧困… 食べるものがなくて飢えるという状態。

相対的貧困… 社会参加して社会の一員として生きる
生活水準を想定した考えの下、社会的、
相対的に定義される必要を欠く状態。

●計画の対象

妊娠期から18歳までの子どものうち、現在困難を抱
える家庭の子ども・将来困難を抱える可能性がある
子どもと保護者。

若者を対象とする施策については、18歳を超える年
齢も含む。

●計画の期間

2019年度～2023年度

●計画の位置づけ

子どもの貧困対策の推進に関する法律の規定を受け、
子どもの貧困対策推進計画を策定し、推進する。

なお、「吉川市第5次総合振興計画」のほか、福祉
関連計画などとの整合を図る。

→ すべての子どもが安心して日々を送り、自分の将来
に希望が持てる社会の実現をめざして、貧困の負の
連鎖を断ち切り、子どもたちが社会を「生き抜く
力」を身につけられるよう支援。

→ 子どもの貧困対策に社会全体で取り組む機運を醸成
し、その機運の下、様々な取り組みを持続可能なもの
として実行。

子どもを取り巻く現状

- 1 困難を抱える家庭の子どもの状況
- 2 困難を抱える家庭の保護者の状況
- 3 生活困難な家庭基盤の状況



課題

- 1 困難を抱える家庭の子どもの育ちの
支援が必要
- 2 困難を抱える家庭の保護者への生活
支援が必要
- 3 生活困難な家庭の生活基盤立て直し
への支援が必要
- 4 子どもの貧困対策の定着に向けた仕
組みづくりが必要



基本目標

- ①子どもの育ちに直接つながる支援に
取り組みます。
- ②子どもを守り支える保護者への支援
に取り組みます。
- ③生活困難な家庭の生活基盤立て直し
への支援に取り組みます。
- ④支援の輪の仕組みづくりに組み
込みます。



主な新規・拡大の取組み

- ①子どもの育ちに直接つながる支援に
取り組みます。

- 新規 子どもの居場所の創出
児童館での学習支援
若者相談窓口のあり方の検討
- 拡大 不登校・ひきこもりの子ども
への支援
身近な公園の整備

- ②子どもを守り支える保護者への支援
に取り組みます。

- 新規 ひとり親の交流機会の創出
安全確認が必要な児童の把握
就労支援に関する相談支援・
情報提供の充実
- 拡大

- ③生活困難な家庭の生活基盤立て直し
への支援に取り組みます。

- 新規 学生服等のリユース促進
フードバンク等の活動促進
- 拡大 就学援助金の支給(周知徹底)

- ④支援の輪の仕組みづくりに組み
込みます。

- 新規 子ども未来応援集会の開催
つながる未来基金の創設
地域の「気づく目」創出への啓発
身近なロールモデルの創出
職員、教員への研修実施
- 拡大 子育て応援ガイドブックの作成

基本理念

すべての子どもが希望をもって力強く成長していけるよう、子どもの貧困を見逃さず、
 であう・きづく・つなぐ・つながる未来へ子どもたちを応援します。

吉川市子育て世帯生活実態調査(2017年度実施)から

○調査の対象等

調査名	配布数	回収数	回収率	
乳児調査	396	293	74.0%	
保育園・幼稚園年長児調査	603	520	86.2%	
小学5年生調査	保護者	748	652	87.2%
	児童	748	653	87.3%
中学2年生調査	保護者	718	630	87.7%
	生徒	718	635	88.4%
合計	3,931	3,383	86.1%	

○調査票における可処分所得分類で「低所得層」に属する世帯の割合

中学生以下の子どもがいる世帯のうち	7.4%
低所得線を下回る世帯の割合	
中学生以下の子どもがいるひとり親世帯のうち	44.4%
低所得線を下回る世帯の割合	

○考察

『平日の勉強時間に差が生じている』

「学校の授業以外の平日の勉強時間」 → 「まったくしない」
 小学5年生 低所得層以外 5.5% ・ 低所得層 12.0%
 中学2年生 低所得層以外 5.9% ・ 低所得層 25.0%

『学校での成績に差が生じている』

「自分の成績をどのくらいと考えるか」 → 「下のほう」
 中学2年生 低所得層以外 20.6% ・ 低所得層 47.2%

『経済的理由により家庭にないもの』

「急な出費のための貯金(5万円以上)」と回答した割合が、低所得層の乳児家庭で13.3%、保育園・幼稚園年長児家庭41.0%、小学5年生家庭で40.0%、中学2年生家庭で52.8%と年齢が上がるにつれて高くなっている。

であう

意味ある大人との出会いは、子どもの心の成長に大きく影響を与えます。
 親以外の信頼できる大人や、憧れや自分にとって模範となるロールモデルに出会う機会を広げ、多様な学びや体験を積んで、「自己肯定感」や「やり抜く力」を育てていけるよう、直接支援することが重要です。

きづく

周囲の大人が子どもの困難さに気づくことが、子どもを負の連鎖から救い出すチャンスとなります。
 特に学校や保育園、幼稚園、児童館など、子どもと日常的に接する教員や保育士、職員などが、子どもの困難さに「気づく目」を持ち、その困難さを理解し寄り添うことが重要です。

つながる

生活困難を抱える子ども・家庭は、地域や学校で孤立している場合が多く、こうした孤立がさらに状況を深刻化させる要因となっています。孤立を解消させるためには、支援者が手を差し伸べるアウトリーチによる信頼関係づくりが必要です。まずは、支援者同士つながることが、子どもの未来への懸け橋となります。

つなぐ

支援が必要な人に支援が確実に届くように、支援者は、関係機関と連携しながら適切な支援を調整し案内するとともに、様々な事情で申請にたどり着けない方には、申請手続きをサポートするなど、伴走型の支援が重要です。

また、学校現場などの教育と福祉との連携を強化し、様々な事象に対しきめ細やかな対応を図りながら、問題を顕在化させ、解決に向けて取り組むことが重要です。

また、支援者同士もつながることで、支援の力は強く大きくなることから、支援者も「つながる」を意識しながら、支援の輪を広げていくことが重要です。

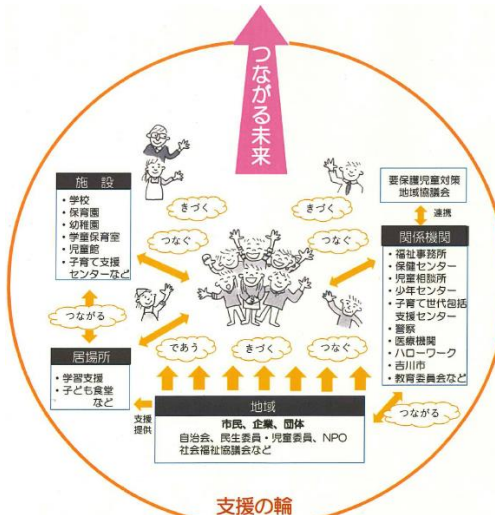
計画の推進

○福祉、教育、保健、医療などの様々な分野の関わりが必要となるため、庁内の関係各課をはじめ、関係機関などとの横断的な連携を図り、本計画を推進します。

○指標に基づく評価のほか、毎年度、事業評価などにより、進捗状況を把握、管理します。

○市民と地域と行政とが連携を強化しながら、支援の輪を広げていきます。

○本計画に位置付ける施策をSDGsの視点を考慮しながら着実に実施することで、SDGsの目標達成に向けた取組みが推進されるものと捉えています。



であう・きづく・つなぐ・つながる未来プロジェクト
 一吉川市子どもの貧困対策推進計画一(2019年3月)
 編集: 吉川市 こども福祉部 子育て支援課
 〒342-8501 埼玉県吉川市きよみ野一丁目1番地
 TEL: 048-982-5111 FAX: 048-981-5392